



千年さんごちゃん通信

千年サンゴと生きるまちづくり協議会 令和2年2月発行

今回は、サンゴ食害生物の駆除（保全活動）を紹介します。

保全活動のきっかけ

2008年3月、「千年サンゴ」を活用したまちおこしをしようと、牟岐千年サンゴ発掘隊が結成され、水産庁のモデル事業として「牟岐・千年サンゴの森プロジェクト」が始動し、サンゴの調査や活用の議論が始まりました。

2009年2月のサンゴ調査で、オニヒトデなどのサンゴ食害生物が大発生し、大島周辺のサンゴが甚大な被害を受けていることが確認されました。

このまま放置すれば「千年サンゴ」にも害が及び、貴重な自然の宝を失うおそれがありました。

そこで、地元のNPOやボランティアダイバーが中心となり、同年3月からオニヒトデの駆除を開始しました。



この活動を元に、2011年7月15日に「千年サンゴと生きるまちづくり協議会」が設立され、現在も保全活動を続けています。

サンゴ食害生物とは？

サンゴを主な食物とする生物のことで、オニヒトデやサンゴ食巻貝と言われる小型の巻き貝を指します。

【オニヒトデ】

オニヒトデは、体表面に有毒な針を持つ大型のヒトデで、大きなものでは直径40cmを超え、太平洋、インド洋、紅海の熱帯及び亜熱帯のサンゴ礁域に広く分布しています。

しばしば大発生して各地のサンゴに甚大な被害をもたらしており、サンゴを摂食する生物の中ではもっとも大きな影響を与える種です。

オニヒトデに食べられたサンゴには、真っ白な食痕が残ります。



【サンゴ食巻貝】

サンゴ食巻貝とは、サンゴを摂餌する肉食性貝類の総称であり、歯舌という櫛状の歯を用いてサンゴの組織をそぎ落として摂餌するカゴメガイ亜科の貝類や、歯舌を有さず、サンゴの組織を吸引して摂餌するサンゴヤドリガイ亜科に分けられます。



(参考：公益財団法人 黒潮生物研究所HP)

なぜ千年サンゴを保全するの？

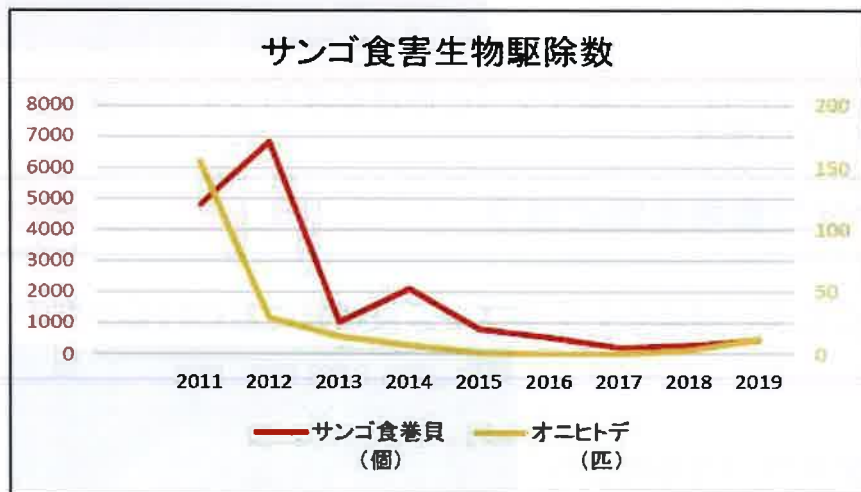
サンゴは、私たちに次のような「海の恵み」を与えてくれます。

- ★二酸化炭素を吸収し、酸素や栄養分を供給
- ★多くの生き物にすみかを提供
- ★重要な漁場
- ★環境をきれいにする（水の浄化など）
- ★地球の環境の指標に

このようにサンゴは、たくさんの生き物のえさ場となり、すみかとなる、まさに「海のゆりかご」なのです。

特に、牟岐町の大島内湾で育成するコブハマサンゴは、サンゴの平均育成速度から、千年以上生き続けていると推測され、「千年サンゴ」の愛称で親しまれています。

私たちは、県南の豊かな海の象徴であり、自然の宝である「千年サンゴ」を次世代に引き継がなければないと考え、保全活動を続けています。



保全活動開始当初は、かなりの数のサンゴ食害生物が駆除されていましたが、ここ数年は、これまでの保全活動の成果もあり、駆除数は激減しました。

しかし、2019年、準大発生に相当する数のオニヒトデを確認しています。

自然環境は流動的に変化することから、今後も定期的な観察により環境変化を察知し、「千年サンゴ」の保全を行う必要があります。

編集後記

今回は、サンゴ食害生物の駆除（保全活動）について紹介させていただきました。今後も、希少な自然の宝である千年サンゴを守る活動を続けてまいりますので、ご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

詳しくは協議会HP <http://www.sennensango.com> をご覧ください。

千年サンゴと生きるまちづくり協議会 事務局
徳島県南部総合県民局保健福祉環境部（阿南）環境担当内
電話番号 0884-28-9858



※ 当協議会の活動は、TOYO TIREグループ環境保護基金の助成を受けています。